

行政視察報告

それぞれの委員会が所管する事項について、先進的な事業や取組を参考にし、三田市政に生かすヒントを得るため、先進地を視察し調査研究を行いました。

経営政策常任委員会

8月3日 愛媛県西条市
移住・定住施策の推進

西条市は、人口減少が著しいことから様々な移住・定住施策に取り組んでいます。その一つである「個別無料移住体験ツアー」は、職員が公用車で送迎、アテンドしてまちの情報を伝え、移住後のイメージに近い先輩移住者に会いリアルな声を届ける、人をつなぐツアーです。ツアーでは空き家バンクも巡り、1泊1000円で30泊まで可能なお試し住宅制度もあります。

西条市の施策が成功した背景には、「移住の決め手は人」という考え方があると思いました。また、「人の心を動かすのは人の心、効率を求



めず泥臭い仕事をひたむきに続ける」という担当職員の言葉に、どんな施策も最後はそこに関わる「人の思い」が決め手になることを再認識しました。本委員会としても、関係部署との連携を強化し、効果的な施策を進められるよう提言していきます。

8月4日 香川県高松市
スマートシティ実現に向けた取組

高松市は、スマートシティ実現に向けた様々な取組を行っています。

防災分野では、悪条件が重なると職員のマンパワーのみでの対応が困難となる課題があったことから、河川や水路にセンサーを設置するなどのデジタル技術を取り入れた結果、職員配置の迅速化と最適化が実現しました。

観光分野では、観光客が利用するレンタルサイクルにGPSを付け、移動履歴・滞在時間の可視化や行動傾向の把握を行い、満足度の向上と新たな観光産業の開発に活用しています。



災害や新型コロナウイルス、高齢化による労働人口の減少等、社会が抱える課題は多様化していますが、デジタル化の推進はこれらの課題解決の切り札になると期待しています。

個人情報の保護等、データ活用に関する市民理解も必要ですが、データを公共財として集積・活用することなどによる行政サービスの最適化の先に課題解決策があるという意識で、取組を進めるよう、市に対して働きかけます。

福祉教育常任委員会

8月4日 三重県伊勢市
市立小中学校再編

伊勢市は、少子化の進行による学校小規模化が課題となっており、将来的に教育環境への様々な問題が生じる懸念があったことから、平成29年に「伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置計画(修正版)」が策定されました。計画策定にあたり、学校適正配置における様々な課題について理解を得るため、かなりの時間をかけて検討・協議を重ね、地域住民や保護者に向けた説明会も幾度となく行いました。

伊勢市の子ども数は当初計画から変化しており、三田市の子どもの数も今後の取組等によって変化していく可能性があります。



学校統廃合は子どもや地域への影響が大きいため、市の取組全体を見て検討し、地域住民と話し合っていく必要性を感じました。また、「合意や納得が得られるまで十分な議論や意見交換を行い、できる限り具体的な方策を伝えるよう努める」という姿勢が大変参考になりました。

8月5日 三重県伊賀市
孤独・孤立問題の解決に向けた支援策

伊賀市は、平成16年に1市3町2村が合併し誕生した市であり、外国籍住民が市人口の6.2%を占めていることから、孤独・孤立支援への取組においては、古くからの地域性を考慮し、マイノリティで生きづらさを感じている市民の減少に努めるなど、重層的な支援を行っています。同市社会福祉協議会では、明確な成果目標である「インパクトゴール」を設定し、市との連携強化に努めていました。特に、「ひきこもりサポートnest(ネスト)」事業では、安心できる居場所づくりや、当事者と家族への支援が行われていました。



伊賀市では、ひきこもり支援から就労支援へつないでいけるような配慮や、相談しやすい体制があり、どこまでも当事者に寄り添う姿勢に職員の熱量を感じました。

三田市と共通する課題も見受けられることから、今後の取組に生かすよう提言していきます。